

日本英語教育史学会 会報

312

2022 年 12 月 15 日

HiSELT Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 田邊祐司)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562
 県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
 tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191
 e-mail: membership@hiset.jp

会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)
 ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873
 ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873

学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第290回研究例会報告

2022 (令和 4) 年 11 月 19 日 (土), 第 290 回研究例会が Zoom を用いたオンラインの形態により開催されました。参加者は 17 名でした。

例会では 2 つの研究発表が行われました。最初の研究発表では、熊谷允岐氏 (茨城大学 [非]) が「三木光斎の図解単語集の研究: 『通俗 英吉利単語篇』の影響下で」というタイトルでお話しされました。続いて藤本文昭氏 (横浜翠陵中学・高等学校) による「岡倉天心・岡倉由三郎の義兄岡倉真範について—英語教師であったその人生—」の研究発表が行われました。司会は押田清氏 (和洋女子大学) でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は熊谷氏, ②は藤本氏の発表への感想, ③は会全体に対する感想です)。

<発表 1 の感想>

◆単語集の挿絵や発音表記などを判断材料にされていることは興味深く拝聴しました。結論を導く難しさもよく理解できました。そのときの研究段階では矛盾点であると思われていたことも、新しい資料の出現で解明されることもあります。地道な調査は誠に大変と存じますが、次回のご発表をまた楽しみにしております。(ニーナ)

<発表 2 の感想>

◆真範の読み方から始まり、人物史研究の面白さと難しさを垣間見たような気がいたしました。真範の著書はあまり多くないようで、調査も大変かと思いますが、継続調査の結果を伺えるのを楽しみにしております。(ポレポレ)

◆ご発表を拝聴して、英語教育とそれに関わる特定の人(たち)が、それぞれの時代においてどのような影響を受け(与え)合い、現代に続いているのかを解明することはとても意義深いことであると改めて思いました。資料収集の方法などの意見交換もとても参考になりました。貴重なご発表をありがとうございました。(ニーナ)

<会全体に対する感想>

◆研究発表 2 に関して、学習院大学の資料館等、今後役立つ情報を提供いただき感謝いたします。(藤本文昭)

◆どちらも私にとって大変有益なご発表でした。先月中旬に関東甲信越英語教育学会の講演で、岡倉由三郎のことに触れ、それを聞いていた聴衆の一人が本日この研究会があることを教えてくれました。

皆さんの雑談の中で交わされていたように、高校入試のスピーキングテストは、大学入試の大学入学共通テスト（新テスト）の失敗の反省にまったく立っていません。現状をよく知らない政界と産業界・経済界が「利益誘導型」で実施しようとしたものです。岡倉由三郎が強調した英語「教育」の本来の理念とか悪しき波及効果などを全く無視したお粗末な“改革”です。犠牲になるのは、いつものことながら、生徒と現場の先生方です。（中島平三）

発表を終えて

熊谷 允岐（茨城大学〔非〕）

第 290 回研究例会では、大変お世話になりましたことを心より御礼申し上げます。本発表では、明治期における一人の浮世絵師、三木光斎が編纂した図解単語集に焦点を当て、その成立過程や先行資料との影響関係、教材に施された学習の工夫などについて報告を行いました。

三木の図解単語集は、当時の他の図解単語集と比べてみても、教材として特に秀でているわけではありません。例えば、『泰西訓蒙図解』（1871）という図解単語集では、西洋の事物を和洋混淆とせず、写実的かつ正確に描写しているという点で、三木の単語集よりも一枚上手だと判断することは可能です。しかし、それでもなお三木の単語集で評価すべき点は、やはりその編纂態度にあったという点は、発表でもお伝えできたかと思います。挿絵をあえて和洋混淆とした理由の一つが、使用者にとってのより平易な理解であったという可能性は、わたしにとって興味深い示唆となりました。

発表後のご指摘にもある通り、単語集の歴史をより正確に理解するためには、辞書や綴字書など、様々な観点からの検討が必要となってきますし、より深く、当時の時代背景を考慮しなければなりません。至らぬ点も多いですが、今後も精力的に調査を行なっていきたいと考えています。ご参加の皆様方には、重ねて御礼申し上げます。

「岡倉天心・岡倉由三郎の義兄岡倉真範について」

～英語教師であったその人生～

藤本 文昭（横浜翠陵中学・高等学校）

横浜市に転居して 10 年になる。横浜市と一言でいってもその領域は広い。観光地として有名な、なみなとみらい、新幹線の駅がある新横浜、その顔は様々である。今回の発表のタイトルにある岡倉真範は横浜市緑区台村町にゆかりのある人物で、東洋の芸術を世界に知らしめた岡倉天心、大正・昭和初期に日本の英語教育に多大な影響を与えた岡倉由三郎の義兄である。明治から大正初期まで、学習院や正則中学校で英語教師をしていた。先行研究も少なく、関連資料の発掘も不十分ではあるが、私自身の居住区にこんな人物がいたことを報告し、英語教育史の一部に残すことで今後の研究題材の糧としたい。

岡倉真範（安政 3 年 4 月 7 日生【グレゴリオ暦 1856 年 5 月 9 日】～大正 14 年（1925 年）4 月

18 日没) 天心は 1863 年生まれ、真範より 7 歳年下。由三郎は 1868 年生まれ、12 歳年下。

岡倉真範の読み仮名であるが、天心の息子岡倉一雄氏の著書では「よしのり」とされているが、平井誠二 (2013) では「まのり」と読むとされています。さらに旧姓の苗字清田も「せいだ」と読むともある。

国会図書館デジタルコレクションで岡倉真範を検索すると、明治 18 年刊の『英語綴字規範』にヒットする。その表紙の **alphabet** で記された著者名には、**M. OKAKURA** とある。**Y. OKAMURA** ではない。この著者の名前は「まのり」ではないか。発表後、竹中龍範先生から国会図書館書誌情報詳細レコードには「マサノリ」とあるとの情報をいただいた。今後も先の長い研究になりそうだが、全く道が見えない暗闇ではなさそうだ。次回は正則中学や学習院での教育活動を探ってみたい。

)) この先の研究例会・全国大会

- ◆ 第 291 回研究例会 2023 年 1 月 7 日 (土) オンライン開催
- ◆ 第 292 回研究例会 2023 年 3 月 18 日 (土) オンライン開催

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要 (100~200 字程度)、(4) 使用予定機器、の 4 点を明記の上、発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日 (7 月発表希望であれば 4 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

)) 英語教育史フォルダ

- ◆若林俊輔 (著)、若有保彦 (編) 『若林俊輔先生著作集⑤: 指導手順、授業研究、学習指導案、教材論他』が一般財団法人語学教育研究所より刊行された。定価は 1,200 円 (税込)。

本書は、本会の会員でもあった若林俊輔先生の指導手順、授業研究、学習指導案、教材論等に関する論考 34 本を収録したもの。全 5 章で構成され、各章について若林先生の教え子 5 名が解説を行っている。本書は一般の書店では販売しておらず、語学教育研究所の次の URL から注文が可能。送料は 1 冊につき 200 円。

http://www.irlt.or.jp/modules/liaise/index.php?form_id=12

日本英語教育史学会 第 291 回 研究例会

日 時: 2023 年 1 月 7 日 (土) 14:00~17:00

オンライン開催 (申込方法については、学会ウェブサイト (<http://hiset.jp/>) 内の「オンラインによる研究例会参加方法」をご参照下さい。)

研究発表

石橋幸太郎の英語教育論：
国語教育との連携を中心に

柁木 貴之 氏 (北海学園大学)

【発表者から】石橋幸太郎(1898-1979)は戦後の英語教育を代表する研究者である。しかしながら、石橋の英語教育論を検討する研究はほとんど見られない。今日の視点から石橋の英語教育論を見直したとき重要なのは、石橋が1960年の時点で国語教育との連携を提唱していた点である(「外国語教育と国語教育」西尾実・時枝誠記監修『実践講座国語教育 第1巻』牧書店)。東京高等師範学校で岡倉由三郎の教えを受けた石橋は、英語教育の教養的価値を重視した。さらに、教科のもたらす教養を遠心的教養(目を外に向け視野を広げる教養)と求心的教養(目を内に向け自己を深める教養)とに分け、英語教育の与える教養は遠心的教養、国語教育の与える教養は求心的教養であるとした。このことから石橋は、英語教育と国語教育は相補的關係にあると考え、両者の連携を提唱したのである。以上の点について、具体的な資料に即して考察を行いたい。

自著を語る

広川由子著
『戦後期日本の英語教育とアメリカ：新制中学校の外国語科の成立』
(大修館書店，2022年3月)

広川 由子 氏 (千葉県立保健医療大学)

【発表者から】本書は、アメリカ対日英語教育構想と戦後日本の英語教育改革との関係を、新制中学校における外国語科の成立事情の解明を通して明らかにすることを目的としている。新制中学校の外国語科の成立を、占領下の産物といった狭い意味で捉えるのではなく、20世紀前半に起こった英語の世界的拡大傾向を読み取りながら、一連のアメリカの対日英語教育構想の軌跡をたどりつつ、戦前・占領期・講和後という三つの時代を俯瞰する手法を採用し、立体的に描出する。

参加費： 無料

問合せ： 日本英語教育史学会例会担当 (reikai@hiset.jp)

EDITOR'S BOX 新型コロナウイルスの第8波の感染拡大が続いています。特に東北や北海道の状況は深刻で、秋田でも1日2,000人を超える日が出てきました。／感染拡大の影響で、学生からも感染したり濃厚接触者となったため対面授業を欠席する旨の連絡が頻繁に来るようになりました。風邪と同じくらい身近な存在になってきましたが、風邪とは違って後遺症の問題もあり、より警戒が必要です。／感染を防ぐには換気が重要ですが、寒さが厳しくなってきたこと、また電気代の値上がりも気になって、ついつい後回しにしてしまいがちです。／繰り返されるコロナの感染拡大に続き、ロシアのウクライナ侵攻、またそれに伴う物価の上昇など、暗いニュースが続いた一年だったと個人的には思います。さらに、防衛費の増額に伴う増税まで議論されるようになり、今後の見通しもあまり明るくはなさそうです。／コロナの完全な収束を期待するのは難しそうなので、今はロシアがウクライナから一日も早く撤退してくれることを祈るのみです。(若)

© 日本英語教育史学会会報編集部 (秋田大学 若有研究室 wakaari@nifty.com)